

ダムの水から知ったこと

聖園女学院中学校

一年 安川 由唯

小学校の社会科見学で宮ヶ瀬ダムを見にいった。ダムからは勢いよく、たくさん水が出ていた。私の住んでいる所にダムや森林はないから、見ていておもしろかった。ダムから出ている水はあふれることなく、なくなることもなく、出続けていた。ときどき飛んでくる水しぶきがとても冷たかった。ダムは水の流れる量を調整する役割がある。けれどその水はどこから来ているのだろうか。

川の水源について調べてみると、川の水は雨や雪として地上にふった水であることが分かった。空からふってきた水が川の水になるには二つの種類がある。

ひとつ目は、ふった雨が流れてきてそのまま川に流れこむということである。空からふってきた雨水は少しずつ、少しずつ時間をかけて川の水となる。つまり大雨が

ふったら洪水になってしまう恐れがある。

しかし、森林の役割によって洪水が起こりにくくなる。森林には、ダムに匹敵する水が貯えられるといわれている。「緑のダム」とも呼ばれている。森林に雨がふってくると雨水は葉によって受けとめられて、ゆっくり流れ落ちていく。水が木の下に生えている植物をうるおして地面の土にしみこんでいくため森林が水をためている時間は長い。

ふたつ目は、いったん土の中にしみこんだ水をもう一度地上に出して、そのまま川に流れこむということである。土の中にしみこんだ水は岩や砂の間にたまっていき、最終的に地下水になる。そして、少しずつ地上に出てきて、高いところから低いところへと流れ続けている。

水は森林の力をかりて調整されていることを知った。私は、いつも水をきれいにするなら、ゴミ拾いなどをするといいことを考えてきたが、それだけでなく、水をきれいにするには森林をしっかりと手入れをして守っていくことも大切だと思った。

一本の木だけでは水はきれいにしないと一緒で一人では実現しなくてもみんなが森林を育てたら、水がき

れいになる。宮ヶ瀬ダムから出ている水もきっと、守ら
れているのだと思う。